

12. 2020年度日本数学会賞春季賞、 出版賞の授賞について

【春季賞】

日本数学会賞受賞候補者選考委員会からの選考結果報告に基づき、春季賞は京都大学大学院理学研究科の尾高悠志氏に授賞されました。授賞理由は、

‘K安定性とその代数幾何的応用’

(英訳: K-stability and its algebro-geometric applications)

に関する業績です。なお、授賞式並びに受賞記念総合講演は、年会の開催中止により、2020年度秋季総合分科会以降の学会で開催予定です。

【出版賞】

出版賞選考委員会からの受賞候補者選考結果報告に基づき、出版賞はつぎの方々に授賞されました。なお、授賞式は、年会の開催中止により、2021年度年会で開催予定です。

神保 道夫氏『量子群とヤン・バクスター方程式』

授賞理由：量子群の概念の登場後、早い時期に日本語による優れた教科書が存在したことはこの分野の研究者層の厚みを確保するのに貢献したものである。最短コースで量子群の基礎を学ぶには現在でも最も適している。一つの分野へ大きな影響を及ぼした著作である。

富永 星氏

授賞理由：一般読者向けに書かれた海外の啓蒙書や数学入門書を数多く翻訳し、数学の普及に大きく貢献していると評価できる。翻訳は適確かつ分かりやすく、たいへん読みやすいものである。氏の訳本は数学の様々な分野におよび、良質で特徴のある原著が選ばれている。

山本 義隆氏『小数と対数の発見』

授賞理由：著者は科学史方面に多数の著作があり、例えば「古典力学の形成」では微分積分学の成立の過程を深く考察している。対象

作では、天文学をはじめとする科学の発展に伴って、小数と対数の概念が確立していく様子が丁寧に描かれている。一次資料に丹念にあたりながら、分かりやすい説明によって読者を導く良書である。